【ねがいましては】

平成１８年１２月５日
第１９３号　　*KYOWA　SCHOOL*

「家族のように」

新しい教室の玄関に飾ってある白板（黒板？）にこのような言葉が書かれています。
『みんながまるで家族のように、お互いを思いやり、楽しく勉強できるところです。』
この文はここに通う中学生たちが、自分たちの中に自然と沸き起こった言葉で書き上げたものです。今までこの教室で受け取ってきた思いを、このような言葉に仕立て上げてくれたこと、何度読み直しても胸が詰まってなりません。私が理想としている『温かい教室』『笑顔であふれる教室』『理想の学校』・・・・。

どうあがいても教職員はわたし一人、用務員もわたし・・・。

彼女たちが、彼らが、新しい教室を育てていくのかな・・・助け合いながら歩いてゆくのかな・・・。明らかに助けられている・・・。わたしも全身全霊でこの子達に尽くさねば・・・。

この子たちが思う「KYOWA SCHOOL」、もし、もしもですよ、この思いを全国の全世界の学校で生活する子どもたちが持てたら・・・ご想像いただけるでしょうか。この地球に暮らす人々の共通した願い『平和』。きっと間違いなく平和はやってきます。大げさかもしれませんが、素直に想像できるのです。今さかんに取り上げられている「いじめ」に関しても、あるはずがありません。

全国の生徒たちと先生方の間に気持ちの壁が出来上がってしまっている方々に知っていただきたい、こんなにも透明な気持ちで机に向かう子たちがいることを・・・。どうにもこうにも表現できないのです。この表情を・・・。

ひたすら真剣に向かう表情、黙って洗い物を始めてくれる子、お茶を入れるときに当たり前のように出てくる言葉「誰かほかにお茶のむ人」・・・もちろん自分の分だけではなく、手をあげた子たちにも入れてあげます。

普段の生活の中で彼女たちは彼らは、この何気ない言葉を、本当は自分の家庭の中で発したいのではないでしょうか。このときの彼らの心の中に流れる温かいものを感じてください。

基本は家族です。どう考えても温かい家族です。そのぬくもりの中で向かえる勉強こそ彼らの最も欲している勉強です。子ども部屋があって、専用の机があって、たった一人で個室の中で向かう勉強。どちらが本物の勉強でしょうか。

さきほどの白板、雨で文字がぼやけてしまいました。水性のペンなので、簡単に流れてしまうようです。「また書かなきゃ・・・。」彼女たちの楽しそうな表情はわたしを和ませてくれます。あの言葉だけは変えないでね・・。

あわただしい引越しに、損得抜きで全身でお手伝いしてくれた人たちの顔、みんな生き生きとしていたあの顔、人のために生きることが、これほどまでに喜びに感じられることを、満面の笑顔で教えてくれました。

その彼らにすべて共通したこころがあります。『欲がない』

人の喜ぶ表情を何よりも大切に、自分の喜びとして感じ取る彼ら・・・。

『欲』・・・この言葉が子どもたちの心をどれだけ蝕んでしまうか・・・。

親の欲・・・『わが子だけは・・・。』　この心を手にしているお母さま方は、お子さんが独りぼっちになってゆくことに気が付いていない方が多いと思います。わが子に対する『子を守らなければ』という感情は、ともすると、お子さん同士の中で解決できるものでも、親の介入により子どものこころの成長を妨げてしまうことが良くあるからです。

子の欲・・・『お母さんに助けてもらおう・・・。』　この心を手にしているお子さんは、自分の欲達成のために真実とは異なった表現を手にしがちになります。『うそ』ですね。友達との間のいさかいを自分に有利な表現に変える場合が多くなります。　→　孤立します。

損得抜きで、真実をしっかりと伝えることのできる『こころ』を育むことが最も大切であると思います。

真実はひとつです。

本当のことを飾ることなくしっかりと伝えることは、人の基礎のはずです。それには精一杯に向かった代償が、たとえ「０点」であっても、にこっと笑って「はいっ、おかあさん」と言って手渡す風景が必要ではないでしょうか。

学校社会の中で、びくびくしながら生活している子の多い中、一人でも多くの子たちを助けてあげることができたらと改めて感じております。

１０月末に教室の引越し、１１月末に今までの自宅の引越しと、人生始まって以来の１ヵ月ちょっとの間に２件の引っ越し体験をいたしました。「ねがいましては」の発行が１回分空いてしまったことをお詫びいたします。

まだ2階もごちゃごちゃのままです。なんとか授業も以前以上のものをと考えております。よろしく皆さんのご協力をお願いいたします。